

『奉仕をしよう』

この題名は私が日頃から奉仕を積極的に行い、又、リーダーとして方向性を示している訳でもありませんので誤解のなきようお願いいたします。

「ロータリーの友を読んで」

私は「ロータリーの友」の愛読者ではありませんでした。この度、情報委員長を拝命いたしましたので無理やり読まざるを得なくなり目を通しております。その中で、アットワークのページを見ますと様々な地区や各クラブにおいて社会奉仕や青少年奉仕を積極的に事業展開しておられる状況を見るにつけ、最近の我クラブと比べ少し恥ずかしく感じております。

「過去のロータリークラブの奉仕について」

私は入会28年経っております。入会当時地区の事業で「ライラセミナー」があつて兵庫県下の若者で将来の地域リーダー育成を目的に作られたプログラムがありました。そのセミナーは現在も続いており、昨年と今年はコロナの影響で中止をせざるを得なかった事情のもとに開催はされておられませんが、今年開催しておられたら43回となる予定でした。2680地区は素晴らしいプログラムを持っております。このプログラムの発起人で今は亡き今井鎮雄（1921～2014）パストガバナーが終戦後復員されてYMCAに所属され、日本の復興に若いリーダーを育てる必要性にかられ、昭和25年に小豆島の余島を拠点に活動を始められました。その後2680・2640地区の青少年奉仕のプログラムにも採用され現在に至ります。

今井鎮雄パストガバナーを語る時、忘れてはならないことがあります。それは私たち龍野ロータリーのテリトリー内において知的障害者施設を2か所も作っていただいております。この事業についてはロータリークラブの地区並びにクラブ事業ではありませんが、2680地区パストガバナー及びRI会長代理で得られた人脈を通して個人として呼びかけられ、播磨自立の家・阪神自立の家・しろう自立の家の建設と運営に深く携わって来ておられます。三つの施設は現在も存続し、多くの障害者の支えとなっております。ご存命ならば今年100歳を迎えておられます。今井パストガバナーをはじめ、我々の先人は国の抱える問題を果敢にチャレンジをして、民間の中で自らの事としてそれぞれの企業運営の傍ら奉仕をしておられます。時代は移り社会的問題はそれぞれの時代に形は違っても多くの問題を抱えております。

「現在における社会問題」

1. 地球温暖化問題について

今年の夏も当地においても35℃以上の猛暑日が続いております。札幌市をはじめ北海道に至るまで猛暑になってしまいました。おまけに「100年に一度」と報道していたのが「今まで経験した事のない猛暑とか暴風雨」に代わり、毎年日本各地において大きな災害が多発しております。世界に目を向けても北極の氷河が解け、海路が運行される状況になり、欧州のアルプスの

氷河も解けております。その上、海の海水の温度の上昇と海流まで変化してサンゴなどの生態系もおかしくなってきております。その上、台風の大きさも以前より巨大化し、災害も大きくなっております。その原因は諸説ありますが一般に言われる過度の二酸化炭素放出と考えられます。これらは産業界の問題であり我々ロータリークラブのできる事ではないと思われませんが、ロータリアンの事業所もその一端を担っておられる事業所もあるでしょうし、個人の自宅でもエネルギー節減にてカーボン減らして行くことも出来ます。今年日本政府も脱炭素宣言を行い、2050年には二酸化炭素ゼロを目指す目標を挙げました。

2. 海・川の生態系の変化

毎年春の初めに瀬戸内海の今年の「いかなご」の漁獲の減少が話題になりますが、先日「明石タコ」が原因不明の漁獲量激減の記事が掲載されております。昔の事です私達が子供の時に海のない宍粟郡から新舞子に潮干狩りに、近所の子供たちとトラックの荷台に幌をかけて集団で行っておりました。ハマグリ、アサリ、マテ貝がいっぱい採れておりました。その上、播磨灘ではノリの養殖産業が盛んで生産量が日本一になった事もあります。又、川では年中ハヤがおり、家では冬に雑魚豆を炊いてくれておりました。夏はアユ、うなぎ、なまず、様々な魚が四季を通してたくさんおりました。その基は山から流れる「栄養塩」と家庭から出る雑排水、田畑から出る有機物が川海の生き物を育てておりました。川海の生き物の減少は、昭和45年頃、川から流れてくる家庭排水の上に経済復興の為の工場排水によってBODが増した水が川を通して海に流れて毎年夏が近づくと赤潮の発生となり、魚介類に大きな影響を与えておりました。そこで国は政策として「瀬戸内海汚濁防止法」を制定し、流域下水道が各地で設置されました。そして工場排水はもちろん家庭排水に至るまで川には流れなくなりました。お陰で川も海も見目はきれいになりましたが、魚介類が食べていた餌がなくなり、川と海の魚介類が本当にいなくなっております。又、私たち人間の利便性からくるプラスチック容器の問題も廃プラ問題として大きく地球規模で問題を投げかけております。

このように私たちを取り巻く環境は地球全体の問題として課題を投げかけております。確かに我々が解決できる問題ではありませんが、一人の人間として問題認識をし、出来る事から始め今井鎮雄パストガバナーのように仲間を増やす事はできるのではないのでしょうか。例えば温暖化についてはエネルギーを最小にした省エネルギー住宅による生活、車は将来水素で動く車、電力は再生可能なエネルギー使用、プラスチックは「捨てない、焼かない」家庭排水は家の横の側溝に流す、田畑は有機無農薬に徹する等々各自、各家庭で出来る事はいくらかでもあります。小さな力が結集すれば大きな力となって行きます。他にも多くの問題もありますが放っておくと人間の生活を脅かすことになる事を挙げました。

このような身近な事で大きな問題に立ち向かうことが今後のロータリークラブの奉仕となれば今井鎮雄パストガバナーをはじめ諸先輩方も納得していただけるものと考えます。